

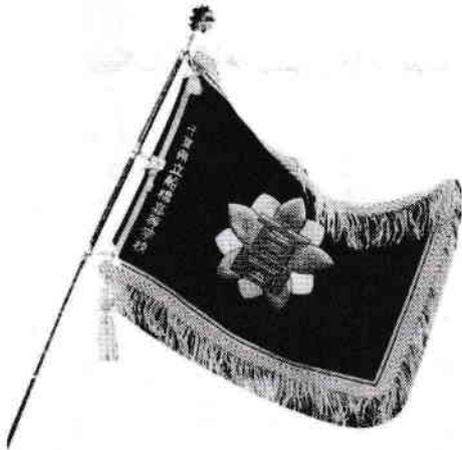
# 同窓会だより

発行  
千葉県立船橋高等学校同窓会

千葉県船橋市東船橋6-1-1  
〒273-0002 TEL047-422-2188  
ホームページ <http://www.funabashi.gr.jp/kenfuna/>

印刷 (株) サラト  
姫路市北条宮の町172番地  
TEL 0792-84-1380

題字／小原天簫先生



## 新しい21世紀の同窓会に向けて



会長

小石 税

(昭和三十年卒)

平成14年夏の県立船橋高等学校同窓会総会において、三代川幹雄前会長からご推薦をいただき、理事の皆さん、そして会員の皆さんのご承認を賜り、会長の大役を仰せつかりました。

同窓会の歴史を紐解きますと、戦後の同窓会復活初代田中健夫会長から数えて9代目の会長となる訳でございますが、諸先輩方の築かれた同窓会の更なる発展のため、身を粉にして、精一杯努める所存でございますので、何卒、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

さて、思い起こしてみますと、20年前の同窓会は、終身会費2,000円、年間総予算約100万円程度の経費で運営されておりました。事業も8月第一日曜日の総会のご案内をするという程度のものでした。

それが、七十周年記念事業を期に大きく変わってまいりました。当時の三橋校長先生のもとで計画されたこの事業は、学校・在校生を中心に記念事業が挙行され、それを会員のみなさんからのご寄付という形で、資金面を中心に同窓会が会を挙げて協力し、同窓会のみなさんの力が正に結実した大成功の事業であったと思っております。

このときの資金の一部が同窓会事業でも活用され、今回で第15号となる同窓会だよりが創刊されましたし、春の

同窓会も現在の様なかたちで盛大に催されるようになりました。正に今の同窓会の礎が築かれた時期となりました。

そして、今回、八十周年記念行事も、前回の記念行事同様、大きな節目となる予感を感じないではいられません。

若い世代の参加、新たな同窓生の声、時代の流れを作りつつあることを痛切に感じさせられました。

今回の会長就任にあたって、その予感を現実のものとしたと改めて思っております。

21世紀の同窓会を思うとき、若い世代の母校を思う気持ちに込め、新たな同窓会へと飛躍したいと思っております。

具体的には、副会長中心に、検討委員会を創設し、新たな同窓会の有り様を探ってまいります。春の同窓会や会報の新たな展開、育英事業や会員の生涯学習事業の創設等々、任期中に実行に移したいと思っております。もちろん、会則の検討も必要と考えておりますが、このような事業を通して、より親しみのある、よりアクティブな同窓会にと考えております。

母校の更なる発展のためには、同窓生の力を一つにして同窓会事業を進めることが要でございます。今までも増して、みなさんのご協力をお願い申し上げます。

# 更なる母校の 発展を祈念して



前同窓会長

三代川 幹 雄

(昭和二十三年卒)

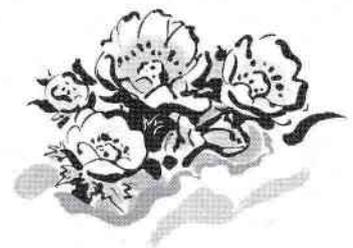
習志野・八千代地区保護司

私が同窓会の役員になったのが昭和三十九年だと思えます。それ以来同窓会の事について色々な面で携わって来たのですが一番苦労したのが習志野支部の結成の事だと思えます。支部結成に二年の歳月がかかりました。卒業生の皆様に色々な意見を聞きながら事を進めたのです

が意見の多い事に驚かされました。又この機会に知らない多くの同窓生と会う事が出来本当に役員をやった良かったと思っております。今後も同窓会活動にお力をお貸し願います。五十周年、七十周年、八十周年記念事業と三つの大きな事業

に携わった事も同窓会活動において一つの通過点で成功裡に終わった事も喜ばしいかぎりでも御座居ます。今後教育環境が時代の流れと共に変化する様な時代が来ると思いますが、本校が今迄通り研学の精神を忘れずに一歩進んでもらいたいと思えます。校長先生の言葉ですが「時代の変化に対応した魅力ある学校づくり」をモットーに現在生徒諸君に指導して居る所であり、ます。心新たまる事と思えます。昨年平成十三年十一月に週刊朝日の誌上にシリーズ「日本の名門校ベスト一〇〇千葉県立船橋高等学校」特集号に取り上げられました。誠に喜ばしいかぎりです。同窓会の一大イベントで有る二月十一日の春の同窓会も回を重ねる事十四回になり定着した事と思えます。今後

も色々と創意工夫して事に当たって会を盛り上げてもらいたいと思えます。長い間会長職を担当して思う事は、会員、役員、学校側の皆様方の心温まる御指導で今日迄来られました事を厚く御礼申し上げます。上げると共に今後船橋高校同窓会の益々の発展と皆様方の御健勝を心から御祈り申し上げますと共に会員の皆様と共に二十一世紀を迎えた母校の更なる発展をお祈りいたします。



# 前 進



校長

町 田 義 昭

(平成十三年着任)

同窓の皆さんには、日頃、母校の発展のため、様々な御協力を賜っておりますことを御礼申し上げます。

域内の中学校卒業生徒数の減少により、本校だけ十学級のままではいられないことからやむを得ないことと考えます。学級減をしたため、今年度の入試では県下でもっとも倍率の高い難関校になりました。このことは、

域内の皆様から進学したい学校として大きな支持をいただいている証拠と考え、感謝しているところです。現職員集団としてはこの状況に甘んじることなく、全国でも有数の進学校として一層の発展を図るべく努力を重ねなければならぬと思っております。

早いもので、四月着任以来六ヶ月が過ぎてしまいました。三月末、県立船橋高校への着任の内示があった時、県下有数の名門校、そして進学校という環境の中で、自分の教頭としての力量、そして行政での三年間のプランク等を考えた時、果たして現場の先生方に迷惑をかけず、スムーズな校務処理が出来るか、とても不安で一杯の状態を着任いたしました。幸い、校長先生、教頭先生、そして諸先生方の暖かいご支援とご協力によりまし

# 県立船橋高等学校 着任にあたって



教頭

原 田 孝

(平成十四年着任)

て、先生方にご迷惑をかけず、何とか校務をこなしております。今後は、新たな様々な教育改革に対応すべく、校長、教頭、諸先生方そして同窓会の皆様のご指導をいただき、県立船橋高等学校の益々の発展に、微力ではございますが精一杯尽力させていただきます。簡単ではございますが、着任のあいさつといたします。

平成十五年

### 「春の同窓会」は、 こんな形で……

実行委員長 石井 英 行  
(昭和三十六年卒)

「春の同窓会」は、来年二月十一日をもちまして、第九回目を迎えることになりました。ご存じのとおり、この春の集いは、世代を超えた卒業生や、懐かしい恩師、ならびに現役学生等二百余名の者が一堂に会し旧交を温める一方、新たな出会いの場としての役割を果たし、同窓会事業の一大イベントとして定着、発展し続けております。

この集いを裏方で支えますのは、慣例により、その年の還暦を迎える学年次の者でありまして、来年は、私も昭和三十六年卒者がこの「場づくり」を担当することになりました。

そこで私たちは、同窓会の目的（会員相互の親睦と母校発展への援助）に沿いながら私たちの力で貢献できるものはないか？を協議いたしました。

その結果、今までにない五つのコンセプトにたどり着きました。

- 一、参加した誰もが「楽しい会だ」「感動した」「次回も参加して見よう」と思えるような企画・構成・演出を行う。
- 二、全日制・定時制、農業科の三学科合同での開催（初めての試み）。
- 三、母校の生い立ちから今日に至るまでの八十五年史を（秘話・エピソードを交えながら）三十分ものの映像記録（VTR）にまとめ、

これを当日の参会者と母校へ（後世に残る貴重な）記念品として無償贈呈する。

四、教職員ならびに現役学生と卒業生が、連帯感・一体感を味わえるイベントの企画。

五、女性や若い世代の人たちが「おう、三十六年卒のオジン・オパン達、なかなかやるじゃないか、とにかく面白い！」と喜んでもらえる楽しい企画……であります。

右のうちの三につきましては、同期生の中に、某テレビ局で活躍し全国的に名の通ったディレクターや映像カメラマンがおりますので、質の高いプロフェッショナルな作品ができるものと確信しております。（ちなみに著作権の関係でVTRの販売はできません。来た人のみへのプレゼントとなります。）

四と五につきましては現役学生による弦楽五重奏の演奏や、いま若者に人気のお笑いタレント（ホリプロダクション所属）公演などを予定しています。

なお、会場の都合により申し込みは、先着三百名様に締め切らせていただきます。



## 船高の歴史・補遺（九）

### 新制高校草創期の船高新聞

千葉県立船橋高校教諭 小川 信 雄  
(昭和三十八年卒)

近代の戦争は交戦国や関係した地域に絶大な変革作用を及ぼしてきたことについて、「戦争は革命の延長である」というテーゼがある。アジア・太平洋戦争においても例外ではなく、日本でも戦後は「革命」同様に民主化・非軍事化が進んだが、それは教育面にも現れた。

船橋中学校は一九四四（昭和一九）年四月から県立に移管された。戦後の四七（昭和二二）年に新学制の実施が確定し、義務教育の新制小・中学校は同年度から実施されるなか、新制高校は四八（昭和二三）年から実施された。

戦時体制のもとで千葉県下を問わず、全国の中学校は軍国主義一色となり、勤労動員・軍事訓練などのため、学校教育自体は解体していた。生徒たちは敗戦に際しても「終戦後のストライキ騒ぎに船橋中学校はおたやかだった」（創立五十周年記念誌）ようである。敗戦の衝撃はゆるやかであった。

しかし、変化はすぐ現れた。新制高校の発足時に校長に就任したのは旧制佐原高等女学校長で、当時三十四歳の山口久太氏である。個性的な教育者であった山口校長のもとで新制船橋高校が発足した。これ以後、船橋高校において

民主化・非軍事化の動きが顕著になる。それを示すものが学校新聞『船橋高校新聞』の創刊である。

『船高新聞』は一九四九（昭和二四）年六月一日に第一号が発行され、その後同年七月一日に第二号、八月十一日に第三号、（第四号は実物がなく不明）、十二月一日に第五号、（第六号も実物がなく不明）と四九年度に実に六回も発行されている。五〇（昭和二五）年度には第七、一四号と八回発行され、五一（昭和二六）年度にも五回の発行が確認できる。現在、全国的に高校新聞の停滞や新聞自体の消滅が指摘されているが、そうしたことと比較すると、これは驚異的な発行回数である。

第一号はタブロイド判二頁であったが、記事タイトルをみると「発展する学校図書館 県下随一」と折紙「軍政部より賞讃さる」と「千葉県下の高校 続々（図書館視察に）来校」「激戦を極めた船橋高校初の総選挙 会長以下全役員決定」「生徒会の使命と吾等の覚悟 吉野行雄」「少年議会開か

る 理事者船高生」「生徒会について 指導部」など意欲的な記事が注目される。「船高新聞」創刊された時期はまた旧制中学校時代の自治会から改組された新しい生徒会が出発した時期でもあった。民主主義を獲得しようとする昭和二〇年代の社会の雰囲気とつながる、いきいきとした生徒の自治的な諸活動が記事内容に反映されている。編集後記には「本校創立記念日にあたり船高新聞を発行することにした。特に校長先生の創刊の辞なるものを取入れなかったのは生徒会新発足に伴い古めかしいことは止めて且前世の遺物である所の弁なるものを止めたのである。校長先生も其の点了解された事は勿論である」とあり、意気軒昂な生徒の意識がみえる。

第二号には「座談会 男女共学は如何にすべきか」、第三号には「県下高校のホープ 新教育の理想郷 船高躍進の現状」の記事がある。現在からみても、このような新制高校発足時の生徒・学校・教職員との動向や雰囲気は伝える『船高新聞』の活動は大いに評価できるものだろう。船橋高校は旧制中学校としての歴史は僅かなものであったが、それは伝統的な価値観の束縛から自由であったことである。伝統のないことが逆に、戦後の民主化のなかの船高に清新な雰囲気と活力をもたらしたのではないか。戦後の典型的な新制高校として発展してきた船橋高校の原点が船高新聞にあらわれているともいえよう（高校新聞がまとまって残されていることは稀であり、県立千葉高校などは新聞がありません。その点で『船高新聞』は教育史の資料としても貴重である）。



# 日本テレビ放送網株式会社

## アナウンサー 阿部 哲子

(平成九年卒)

平成6年4月、県立船橋高校へおそらく優秀な成績で入学し、平成9年3月、明らかに下から数えた方が早いという成績で卒業した阿部哲子と申します。現在は日本テレビ放送網株式会社編成局アナウンス部に所属しており、日本語の難しさを痛感する日々を送っています。

先日、3年D組の担任だった松田裕二先生から、この同窓会の原稿依頼を受けた時、二つの意味で「私で良いのですか？」と驚きの声をあげてしまった。一つには、こんな私に声をかけて下さるなんて有難い、卒業しても覚えていて下さっているんだという感謝の意味。二つには、自分を飾ってカッコつけて書くことは嫌いなので、正直に書きちゃいますよ？いいですね？という少し脅すような意味だった。



足他人の手を借りても数えるのに足らず、廊下で早弁（お昼前にお弁当を食べること）して見つかることも数知れず。お腹が痛いといふんだ体育の時間に、友達とポテトチップスを机に並べて教室でサボっているのを見つかったこともある。定期テストの赤点なんて取り飽きた。小学校、中学校で成績上位を修めてきた私が、高校に入ってからバツタリと親に通知表を見せなくなつたという理由もこの辺りから来るのだから。

最もキラキラと輝いた日々だったと断言できる。私の原点は船高だ。正確に言えば、船高で出会った掛け替えのない仲間。小さな軟式テニス部の部室で、同期女子6人、どれだけでも泣いて、笑って、語り合ったであろう。次の日になればまたすぐに会えるのに、夜遅くまで離れられず部室に残っていたこともしばしば。今考えれば取るに足らない出来事に一喜一憂し、青春、ここを思い出したのかも知れないが、その時の我々にとって、常に季節は生ぬるい。春、ではなく、全てに精一杯の汗を流す。夏、だった。



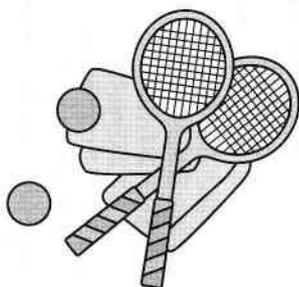
硬式テニスに比べると、地味なイメージの軟式テニス。その上、男子軟式テニス部は県大会出場などなかなかの成績を修めていたが、我々の代に限って言えば、女子軟式テニス部といったら箸にも棒にもひっつかからない弱小チーム。試合の勝ち負けよりも楽しければいいじゃない、という仲良し倶楽部だった。その結果、夏休みの合宿もさせてもらえなくなり、弱さは増す一方だった。OBの先輩方、本当に申し訳ありません。それでも、夏休みには朝7時から日没前の午後6時まで、真っ黒になりながらボールを追いかけていた。

しかし！他の部活動の生徒からも羨まれるほどにかく仲良く、いつも明るい我が軟式女子テニス部にも、暗黒の大学受験期がやってきた。今思えば、それも懸命に人生にだって考え、討論する貴重な時間だった。当時はテニスに、恋に、と大忙しの17歳。若さを勉強機の上で過ごすなんて不幸だなあ。昔も今もそうかもしれないが、3年生になった途端に、スイッチが入るかのように受験モードになる船高。それまでダラダラと学校に残っていたあの子もこの子も、さつさと予備校に消えていく。とんでもない寂しさと焦りが襲ってくる。出てくる話題もテストの予定、成績についてはばかりで、休まずに続いていた軟式テニス部日記も1週間に1度回ってくるかどうかになり、そのうち、その存在すら忘れられるようになってしまった。しかしどんな奇跡か間違いか、これまで、点数の低さを笑いながら競っていたような私たちは、数々の厳しい下馬評を乗り越え、

6人全てが大学に合格することができた。それぞれが自分を柵に上げ、お互いの進学に驚き、喜びがあった。当時の先生方も、さぞかし安心されたことだろうと思う。これが私の高校時代であり、今ある自分の原点の日々である。

松田先生は後に、あんなに大変で、手を焼いた生徒達だったからこそ本当に楽しかったし、印象的だったとおっしゃってくださった。それほど苦労だったのか。……いい意味でも悪い意味でも、記憶に残るような高校時代。私は最高の友達と先生と、そして温かい家族に支えられていた。天の川の星のように、それらは無限で眩しいため筆舌に尽くしがたいのだが、その一つ一つが懐かしく、愛しい思い出。今となっては遠い記憶のような小さな門をくぐり、2階の砂つぼい下駄箱に立ったとき、きつと当時の気持ちに戻り、授業開始のチャイムを聞くことができるだろう。いくつ歳を重ねても、体に染み込んだ船高の匂いは消えることがない。

すべての方々に感謝を込めて。  
平成14年10月



# 恩師探訪

## 十九年間の

## 思い出(おもい)も(むい)も

## 山口佐代子先生



私は五十六年度より平成十一年度に定年退職するまでの十九年間、船橋高校に養護教諭として勤務させていただきました。

赴任当時は今から思えば、学校も長閑な時代でした。秋(十月上旬)の日曜日には、体育祭が上のグラウンドで行われ、競技種目にはピラミッドの組体操や棒倒しがあり、見て

いる方は少々神経を傷めました。手首の捻挫やかすり傷程度の怪我で済んでほしいものでした。名物の仮装行列には男性の教師も参加し、お化粧した顔にノースリーブやミニスカートの姿がよく似合っていました。

「この女の人は何先生?」「あれはB先生みたい」などという声が飛び交い、保護者の方と共に秋の一日を楽しんだものでした。

### ○寒稽古の思い出

三学期の始業式の次の日から一年一クラス、二年一クラスというように、一日に二クラスずつ、朝七時、八時まで、男子は柔道と剣道に分れ、女子はグラウンドで持久走の練習をした。生徒はたった一日のことであったが朝暗いうちからの登校で遠い生徒は大変だったと思う。一方保健体育科の職員は連続して十日間(二年10クラス)練習をするため、二段、剣道や柔道を担当していない人

は、素足で行うため足の裏の皮が大きくなったり、柔道で腰痛になって病院に受診したりした。

この寒稽古期間中、部活動の先輩(大学生)がそれぞれ二、三人ずつ応援に来て後輩の指導に当たっている姿は寒い中にも、暖かい人間関係に心打たれたものでした。

### ○健康診断の思い出

毎年一学期の全校生徒の健康診断は、まさに健康診断ラッシュと言えるほど、目白押しに検査、検診が続くのです。

X線間接撮影(二年のみ)、心電図検査(一年のみ)、尿検査、内科、耳鼻科(一年のみ)、眼科、歯科の健康診断、身体測定・貧血検査(本校独自)と、授業と並行して行うのです。

この検診には、各科の学校医さん始め検査機関の方や、保健部の職員、各クラスより二名ずつ選出されてきた保健委員と養護で係を分担して行うのです。全校で六十名の保健委員の人たちは、責任感が強く指定された時間に検査会場に来て分担された役割をテキパキと果たしてくれました。その姿を今でも思い出しては感謝しています。この健康診断によって病気が異常が早期に見えられ治療されるため、日頃の生徒の学習活動を

支援してくれているのでした。

### ○大いに役立っている貧血検査

昭和五十一年に開始され今日に至るまで、二十七年続けられているこの検査は、私の前任の養護の古川さんの時からの検査のこと。

学習にも運動にも集中する船橋高校の生徒に適した検査で現在においても大いに生徒のために役立っているのです。

### ○ある日の救急活動の思い出

毎朝保健室に入ると同時に今日一日大きな怪我や病気が起きませんようにと祈りにも近い気持ちになるのです。

### ○修学旅行の引率のこと

修学旅行には十九回引率し、その間、特別な大きな事故・病気にも遭遇せず幸運に感じています。これも注意事項を素直に守り、実行してくれた生徒の皆さんのおかげでした。毎晩実施される「健康チェック」は、班長が班員の健康状態を確認し報告するのですがこの仕事も、責任感の強い班長のお陰で毎年スムーズに行

者の方と学校関係者はお互喜び合ったことを思い出しました。

### ○林間学校の引率のこと

十九回の引率の前半の十年は尾瀬行きであった。七月二十日の終業式の次の日から、学年を3隊にわけ出発日をずらしながらの二泊三日の日程でした。第二日は登山コース(懸ヶ岳コース)時には至仏山コースと軽コースの尾瀬沼コースに分かれ、各自が希望するコースを選び行動した。中には貧血があるにもかかわらず、どうしても登山コースへ行きたいと言いつ張り問答の末「林間直前の再検査の結果が標準値に達していたら登山可とする」などと、いず

### ○悩みを持った生徒と共に過した

昭和六十二年頃から、心の悩みを抱えて保健室で過ごす生徒が現われはじめた。この人たちの訴えは、「教室にいと震えてくる」「呼吸が苦しくなってくる」「不安になつてくる」というものだった。その他、「ご飯を食べようと思っても食べられない」「拒食症や、食べても食べても食べたい」過食症で苦しむ生徒がいて、保健室はその対応に戸惑った。そこで教育相談部のメンパーと嘱託精神科医の町沢先生との合同の研修会を開いて、勉強し悩める生徒の理解に努めたりした。悩んでいる生徒と保健室で過ごしてわかったことは、どの生徒も、几帳面、真面目、頑張り屋、礼儀正しかった。又周りの人に気を使う余りか自分の気持ちを抑制し言葉に出して表現することが少ないように感じられた。日頃から友達と気楽におしゃべりし合うことが心の健康を保つのに役立つように感じました。

最近、他県で精神保健福祉士をしている十二年前の卒業生から便りをもらった。その中の一文に「先生俺もう30歳になるつすよ。先生の保健室から再び始まった俺の人生。先生との関わりから生き返ったこの種、いつか必ずはじけます。俺と同じような道を歩む子が一人でも少なくなるように。」と。文の掲載は本人の了承済み。お世辞とはわかっていてもこの手紙を読み胸が熱くなりうれしかった。



われ、最後に体の具合の悪い人が医師に診てもらい、軽い人は早めに就寝するなど救養係の教師の指導に従うのである。宿舎に病人がいない日には、養護の私も古都の秋を楽しんでいたのを思い出します。

# 同窓会事業報告

## 平成13年度事業報告

13年度の事業に伴う決算は別添表の通りです。

13年度は、昨年ご報告致しました80周年募金関連諸経費未払い分を精算した残金から、8月6日の同窓会総会承認を得て、特別寄付金として100万円を三代会長より8月7日町田校長先生に寄付致しました。総会において、学校側より感謝と共に、事業決算書が提示されましたのであわせてご報告いたします。

同窓会だより発行につきましては、13年度も住所判明者全員を対象に、「同窓会だより」・「2月11日春の同窓会案内」を同封し17,984通送付致しました。(経費2,993,629円) 今後は、立ち上げた船橋高校同窓会ホームページにこれら記事を載

## 平成13年度春の同窓会(14年2月11日)

「選歴を迎えた同窓生が幹事学年と

せ、コンピューター世代の卒業10年迄の卒業生にはその旨葉書により通知する事で経費的圧縮を諮る予定です。

平成12年度に、10千円にて協力をお願いし、同窓会だより発行・送付費用を中心とし広く事業活動の原資としてより復活し、最終には1,803口

3,059,120円のご協力を頂きました。引き続き平成13年度は、1,354口、2,487,860円のご厚志が集まりました。これにて14年度も何とか同窓会だよりを発行・発送できそうです。有難う御座います。

## 平成13年度一般会計収支決算報告書

1. 収入の部		12年度決算	13年度予算	13年度決算	備 考
繰越金		2,013,074	2,230,506	2,230,506	
会費収入		948,000	1,000,000	978,000	本年全409 定80
雑収入	利息	1,275	1,000	449	前年全406 定68
	その他	0	0	0	
合 計		2,962,349	3,231,506	3,208,955	

2. 支出の部		12年度決算	13年度予算	13年度決算	備 考
会議費	総 会	62,400	150,000	51,600	
	役員会	125,050	150,000	96,500	
	通信費	15,150	100,000	15,890	
需要費	印刷費	72,095	100,000	64,385	会：校内印刷費
	消耗品費	0	20,000	1,449	
	人件費	10,000	20,000	10,000	総会案内宛名書き
	団体支出金	255,000	350,000	550,000	全国大会出場補助他
後援費	卒業記念費	87,998	120,000	89,465	卒業証書筒
	育英金	0	10,000	0	
	組織企画費	30,000	200,000	35,000	クラス会補助 7件
交際費	会 長	0	20,000	14,280	
	慶弔費	30,000	70,000	64,280	
事務経費	予備費	44,150	150,000	37,850	交通費等
	次期繰越金	2,230,506	0	2,178,256	
合 計		2,962,349	3,231,506	3,208,955	

3. 財産目録	
一般会計積立金	700,000 郵便定期貯金
積立金利息	43,008 H14年3月末(税引後)
合 計	743,008
自動車1台	トヨタハイエース4WD(平成6年式)
同窓会車庫1庫	

## 平成13年度特別会計収支決算報告書

特別会計1 春の同窓会基金		12年度決算	13年度予算	13年度決算	備 考
前期繰越金		400,000	400,000	400,000	
会費等収入		2,300,000	2,500,000	2,250,000	会費(223名分) 振替券(2名分)含む
利息		802	2,100	2,142	前年度繰越(222名分) 謝状(3名分)含む
合 計		2,700,802	2,902,100	2,652,142	

2. 支出の部		12年度決算	13年度予算	13年度決算	備 考
要 費		1,728,037	1,900,000	1,666,837	本年卒225名 前年卒227名 前年卒295名
別 アトラクション代		53,150	100,000	100,000	
通信費		139,850	100,000	100,000	出欠届通知
幹事学年打合せ費		107,000	100,000	100,000	
運 送		45,000	50,000	48,000	名札・参加者名簿等作成
事務費・実行委員打合		43,600	50,000	50,000	
特別会計への繰入		179,165	202,100	187,305	
次期繰越金		400,000	400,000	400,000	
合 計		2,700,802	2,902,100	2,652,142	

特別会計2 記念事業関係		12年度決算	13年度予算	13年度決算	備 考
前期繰越金		18,267,738	11,047,053	11,047,053	「記念事業」関係
事業協力金		3,059,120	2,700,000	2,487,860	13年度同窓生1,354名抽選サラト
会員名簿販売代金		72,000	20,000	0	前年度同窓生1,803名抽選サラト
80周年名簿還元金		0	10,000	0	同窓会便り発行時
B.O周年寄付金		8,752,448	0	80,000	
特別会計よりの繰入		179,165	202,100	187,305	
利息		3,535	6,400	6,475	
合 計		30,334,026	13,985,553	13,808,693	

## 千葉県立船橋高等学校創立80周年記念事業決算書

1. 収入の部		金額	備 考
1 寄付金		13,500,000	同窓会
2 積立金		800,000	全日制PTA250,000 全日制標準会250,000 定時制PTA150,000 定時制標準会150,000
3 雑収入		460,302	祝儀 利息
計		14,760,302	

2. 支出の部		金額	備 考
1 事業費		12,786,421	
部 活動振興費		4,387,829	オーケストラ(イングリッシュホルン・コントラバス外) 野球(バットイングゲーム) 剣道(防具) トレーニング用(ヘルメット) 体育館用大型ビーター・ストープ
情報教育振興費		1,999,987	コンピュータ整備
国際交流費		2,302,429	国際交流基金
調査費		1,501,476	「船橋高校21世紀ビジョン」調査及び報告書
記念誌発行費		2,594,700	1,000冊
2 式典費		1,853,501	
記念式典費		1,853,501	式典・祝賀会(校歌CD2,000枚含)
3 原務費		20,380	
会議費		16,380	実行委員会等会議費
通信費		4,000	切手代
4 予備費		0	
計		14,760,302	

上記決算書により諸帳簿証拠書類等監査の結果、適正かつ過誤のないものと認めます。

平成14年1月16日

監事 齋藤和夫  
監事 天谷正夫

## 役員改選

80周年募金活動の精算も終了したの期に、三代会長が勇退を申し出され、理事会、総会を経て会長、副会長の選任が行われました。又、これを期に名誉会長を若干名、春の同窓会実行委員長の理事推薦及び「任期中一度の出席も無い理事は任期満了をもって役員辞退とみなす」などを内容とした会則の変更も承認されました。

新役員は以下の通りです。

名誉会長 三代会長(前会長) 齋藤和夫(前副会長)

顧問 齋藤和夫(前副会長)

会長 小石 税(前副会長・昭和30年卒)

副会長 林 晃志(前理事・昭和28年卒)

副会長 金子安雄(前理事・昭和34年卒)

副会長・専務理事 天羽生 豊(前実行委員長・昭和35年卒)

幹事 花澤保夫(前理事・昭和28年卒)

尚、80周年募金に学年幹事としてご

協力頂いた同窓生には、本人の了承

得て、同窓会理事に就任頂くこととなりました。

## 同窓会報規定の設置

現在の船橋高校生の活躍は素晴らしく、理化学系で良く全国レベルの表彰を授与され、同窓会としてはご存知かと思えます。又、同窓会としては、単に在校生に止まらず、目覚ましい社会的活動をしている同窓生を報奨できないかとの要望に応え

「全国入賞レベル以上の実績をあげた部活動またはその部員」

「県立船橋高校の名を広めるような、著名な活動をした者」に、

原則として一件につき100,000円〜100,000円の奨励ないし報奨金を同窓会より授与する報奨規定を設けました。理事会・総会で審議実行していきますので、ご意見ご推薦等お寄せください。

# 母校の現況

## ●全日制の部活動

注：番号の区分

- ①13年度新人大会
- ②14年度関東大会予選
- ③14年度インターハイ予選
- ④その他

### (運動系部活動)

- アーチェリー
  - ①女個人優勝
  - ②女団体優勝
- 関東大会団体6位入賞
  - 個人7位入賞
- ③女個人準優勝
- ④女団体 関東にて敗退

### バドミントン

- ①男団体 1回戦敗退
- ②男団体 2回戦進出
- ③男ダブルス 2回戦進出
- ④男シングルス 1回戦敗退

### ソフトテニス

- ①男団体 2回戦敗退
- ②男個人 1回戦敗退
- ③男個人 県予選敗退
- ④女個人 2回戦敗退
- ⑤女個人 県予選敗退
- ⑥女個人 2回戦敗退
- ⑦女個人 1回戦敗退

### 野球

- 14年度春季大会 県大会出場
- 14年度夏季大会
- 3回戦銚子商に8対1で敗退

### バスケット

- ①男ベスト16
- ②男ベスト8
- ③男ベスト8、女1回戦敗退
- ④男高校年間ランキング7位 (木村聡大・国体二次候補選考)

### 新体操

- ④たちばな祭で演技披露

### バレーボール

- ①男県大会1回戦敗退
- ②女県大会1回戦敗退
- ③男県大会2回戦敗退
- ④女県大会1回戦敗退

### サッカー

- ②県ベスト32
- ③県ベスト32
- ④選手権予選 県ベスト16

### 水泳(水球)

- ①準優勝
- ②(高校選手権)準優勝
- ③準優勝(関東大会出場)
- ④県代表選手選抜1名

### (競泳)

- ①個人二〇〇M背泳優勝
- ②個人二〇〇M背泳優勝
- ③個人二〇〇M背泳優勝
- ④インターハイ2名出場
- ⑤インターハイ2名出場
- ⑥インターハイ2名出場
- ⑦インターハイ2名出場
- ⑧夏山合宿 秋田駒が岳 山岳競技クライミング部門1位

### 剣道

- ①男団体ブロック5位
- ②女団体県大会進出
- ③男団体2回戦敗退
- ④女団体2回戦敗退
- ⑤男団体ベスト32

### 陸上

- ①個人 森川武留8位
- ②個人 森川武留4位
- ③個人 細田直裕6位
- ④個人 森川武留4位
- ⑤個人 細田直裕6位
- ⑥個人 森川武留4位
- ⑦個人 細田直裕6位
- ⑧個人 森川武留4位
- ⑨個人 細田直裕6位
- ⑩個人 森川武留4位
- ⑪個人 細田直裕6位
- ⑫個人 森川武留4位
- ⑬個人 細田直裕6位
- ⑭個人 森川武留4位
- ⑮個人 細田直裕6位
- ⑯個人 森川武留4位
- ⑰個人 細田直裕6位
- ⑱個人 森川武留4位
- ⑲個人 細田直裕6位
- ⑳個人 森川武留4位
- ㉑個人 細田直裕6位
- ㉒個人 森川武留4位
- ㉓個人 細田直裕6位
- ㉔個人 森川武留4位
- ㉕個人 細田直裕6位
- ㉖個人 森川武留4位
- ㉗個人 細田直裕6位
- ㉘個人 森川武留4位
- ㉙個人 細田直裕6位
- ㉚個人 森川武留4位
- ㉛個人 細田直裕6位
- ㉜個人 森川武留4位
- ㉝個人 細田直裕6位
- ㉞個人 森川武留4位
- ㉟個人 細田直裕6位
- ㊱個人 森川武留4位
- ㊲個人 細田直裕6位
- ㊳個人 森川武留4位
- ㊴個人 細田直裕6位
- ㊵個人 森川武留4位
- ㊶個人 細田直裕6位
- ㊷個人 森川武留4位
- ㊸個人 細田直裕6位
- ㊹個人 森川武留4位
- ㊺個人 細田直裕6位

### テニス

- ①男団体2回戦敗退
- ②男女ベスト32
- ③男ベスト32
- ④男シングルスベスト16
- ⑤女2回戦敗退

### 柔道

- ①団体ベスト32
- ②団体ベスト32
- ③団体ベスト16
- ④現在活動中

### スキー

- ④現在活動中

### (文化系部活動)

- オーケストラ
  - 第26回定期演奏会
  - 全国高等学校総合文化祭出場
- 合唱
  - 県連合、船橋地区音楽会参加
  - 第24回定期演奏会
  - 老人ホーム慰問
- ダンス(同好会)
  - 文化祭、予選会等で活動
- JRC
  - 西部地区協議会参加、献血
  - 一円玉募金、盲導犬募金

### 歴史研究

第24回生徒歴史研究発表大会に参加  
ESS  
英語のコミュニケーション能力を高めています。

### 書道

13年度高等学校総合芸術祭参加  
第54回県書き初め展参加

### 茶道

たちばな祭、ほととぎす祭 呈茶  
第11回総合交流茶会 呈茶

### 演劇

14年度 春季第5地区発表会  
生徒作品「ANSWER」上演

### 華道

たちばな祭展示  
池坊学校華道インターネット花展

### 鐵研

文化祭で鉄道模型実演と駅弁販売  
フォークソング  
校内定期コンサート  
たちばな祭でコンサート  
船橋市民フェスティバル  
学校へ行く出演

### 定時制の部活動

(全国大会の記録)  
柔道  
於 講道館  
8月3日(土)  
団体 決勝T進出ならず  
個人 重量級 市原知行 第3位

### バドミントン

於 小田原アリーナ  
8月19日(月)  
男子シングルス  
岡崎智彦 初戦敗退  
8月20日(火)  
男子団体  
千葉県チーム 2回戦敗退

### サッカー

於 静岡県清水市蛇塚グラウンド  
8月10日(土) 1回戦  
対浜松城南高・静岡  
1対3で敗退  
男子バスケットボール  
於 東京体育館  
8月2日(金) 2回戦  
対碩信高・大分 89対48  
8月3日(土) 3回戦  
対札幌南高・北海道71対86 (ベスト16)

## 全国高等学校総合文化祭に出場して

オーケストラ部部長 森 敦子 (二年在学)

## 全国大会に参加して

放送委員会 若狭順子 (二年在学)

オーケストラ部が全国高等学校総合文化祭の千葉県代表に選ばれた、という知らせを聞いた時、正直驚きました。定期演奏会後から1ヶ月もない短い練習期間、さらに、3年生が引退してしまい、多くが初心者のが1年生と経験不足の2年生だけの編成になってしまっています。様々な問題が上がり、不安が募るばかりでした。しかし、受験があるのにもかかわらず、引退後も何人かの3年生は残って下さることになり、安心して練習に取り組みることができました。演奏曲は、定期演奏会で演奏した「トリッチ・トラッチ・ポルカ」と新しく練習を始めた「フィンランディア」に決定しました。短期間で曲が仕上がるかどうかが心配でしたが、「やるしかない」という気持ちで、部員一同毎日練習に励みました。当日も練習の成果の出せた納得のいく演奏が出来たと感じます。他県代表校の演奏も新鮮で、多くのことを学びました。この経験を生かして、より良い演奏を目指して努力したいと思います。



オーケストラ部が全国高等学校総合文化祭の千葉県代表に選ばれた、という知らせを聞いた時、正直驚きました。定期演奏会後から1ヶ月もない短い練習期間、さらに、3年生が引退してしまい、多くが初心者のが1年生と経験不足の2年生だけの編成になってしまっています。様々な問題が上がり、不安が募るばかりでした。しかし、受験があるのにもかかわらず、引退後も何人かの3年生は残って下さることになり、安心して練習に取り組みすることができました。演奏曲は、定期演奏会で演奏した「トリッチ・トラッチ・ポルカ」と新しく練習を始めた「フィンランディア」に決定しました。短期間で曲が仕上がるかどうかが心配でしたが、「やるしかない」という気持ちで、部員一同毎日練習に励みました。当日も練習の成果の出せた納得のいく演奏が出来たと感じます。他県代表校の演奏も新鮮で、多くのことを学びました。この経験を生かして、より良い演奏を目指して努力したいと思います。



放送委員会 若狭順子 (二年在学)

# おたより彼れ是れ

平成十四年春の同窓会返信用葉書で寄せられた会員の「声」です。

## 高橋義夫(昭和三十一年卒)

「夢科」の山頂から山荘へ下る途中、右手(標高約2,400m)にたちはなの木が自生していた。花は赤色で葉は校章をつくりだした。

## 藤本雅彦(昭和四十九年卒)

視聴覚委員会で8mm映画など撮っていましたが、部室だった食堂横のあの小部屋は、どうなっているのでしょうか。隠れ家、サボリ部屋だったのですが、村尾忠久(昭和二十三年卒)

## 定時制クラスが顕在なのでホットしました。私は船橋高定時制のチームを編成し、県の高校駅伝大会に出場したこと、放課後(夜)校庭、道路で練習したこと、当時が懐かしく想いました。

## 会沢武(昭和二十五年卒)

船高で唯一一回甲子園へ出場(テニス)したのは私と菊地、加藤で3回戦までゆきました。運動靴が配給の時代でした。

## 副田修一(平成元年卒)

パレー部のベスト16復帰おめでとうございます。関東大会めざしてがんばってください。

## 大畑文昭(昭和二十九年卒)

三橋先生や松戸先生と共にした昭和36年の白馬岳登山、雲深に咲く高山植物や雷鳥に遭遇したことを、青春の思い出に浸ることができました。

## 石橋安(昭和二十三年卒)

終戦を挟んで5年間(旧制中学)学んだ時期は食料も物資もない暗い時代だったが、船中での生活は人生の中で一番楽しく懐かしい時期でした。

## 渡部晶子(平成八年卒)

「無名塾」という劇団で役者をやっております。

## 猪股功(昭和三十一年卒)

4年前定年を迎えて、現在趣味三昧に明け暮れています。その前年、仕事で進路指導室へ進学情報誌を届けた事がありました。卒業後、初めて母校を訪れたのですがそこには、当時の面影はなく、過ぎ去った歳月と、ここが母校だったのだ、という感慨に浸ったものでした。

「無名塾」という劇団で役者をやっております。

## 猪股功(昭和三十一年卒)

4年前定年を迎えて、現在趣味三昧に明け暮れています。その前年、仕事で進路指導室へ進学情報誌を届けた事がありました。卒業後、初めて母校を訪れたのですがそこには、当時の面影はなく、過ぎ去った歳月と、ここが母校だったのだ、という感慨に浸ったものでした。

## 杉原次夫(昭和二十五年卒)

小生70歳を迎え、充実した人生をめぐろと存じます。

## 荒井雷川(昭和四十一年卒)

船橋合唱部OBによる混声合唱「ア・テンポー」をスタートさせました。

## 島倉富田未知子(昭和四十九年卒)

創立80周年記念講演の江川紹子さんの「大事なことは自分をちゃんと認めること」は、まったくその通り。小学校の教員をしています。子どもたちお互いにお互いを認め、一人一人大切にしていこう指導しています。

## 石橋礼子(昭和四十五年卒)

卒業して30余年が経ち、50代になりました。私にとつて高校時代は、まもなくまがちな訪れるであろう輝かしい未来の予感に支えられた、人生で最も安定した日々でした。

## 安富藤竹(昭和三十四年卒)

在学中、図書委員を3年間、委員会室での思い出が、青春でした。朝、昼休み、放課後、本のおいと委員会

の皆さんに囲まれて過しました。今も読書三昧の毎日です。

## 林直樹(昭和五十八年卒)

水泳部のOBです。私が入学した年に水球が始まりましたが、初年度はなかなか勝てなかった記憶があります。後輩達が県内で優勝するなど、とても嬉しく感じます。

## 白木良太(平成二年卒)

水泳部OBとして最近の水泳部の活躍には目を見張るものがあります。外のプールで、プールサイドに下ラム缶をおいて木を燃やしながら練習したのが懐かしいです。

## 富永倫浅(悦子)(昭和五十年卒)

実家(佐倉市)へ帰ったとき、京成線旧「センター競馬場前」駅と周辺の変わり方に驚きます。いづかぜい母校を訪れてみたいと思います。

## 岡本至剛(昭和四十六年卒)

第14号同窓会だよりの母校全景写真を見て、なつかしく当時の頃を思い出しました。入学した頃は旧体育館、理科室、柔道場も木造校舎で残っていましたが卒業時にはそれもなくなり、新体育館での卒業式であったと思います。

## 今井(今井)正子(昭和三十年卒)

65才になる今も若い人達とテニスをバンバンやっています。船橋テニス部で基礎を培ったお陰で苦しい時、悲しい時テニスで助けられました。

## 高石理恵(平成九年卒)

HPの設立は、インターネットを利用して気軽にのぞくことが出来るのが良い気候と思います。

## 河合冬樹(昭和五十三年卒)

同窓会だより第14号拝見し、「野望」水泳部の写真に我教子(小学校5・6年のときの)が2人も写っていて嬉しく思いました。頑張れ「船高健児」

## 中山の記憶

小井土 清(昭和二十五年卒)

八月十五日後の炎天下、軍人の長い訓練が始まる。直立不動の市川中、船女の生徒の中に倒れる者が続出した。船橋中の生徒は皆無。終わらぬ瞬間、船橋中が短く叫んだ。「つらつらぬ話をよく我慢して聞いた。すぐに解散」驚きで互いに顔を合わせた。夏が来ると、五ヶ日間の中山競馬場馬場を思い出した。中山競馬場中学校に入学した年一生涯の職場をもつて教育の場として勤務を通じて人物の鍛錬につとむとす。と国から通達が出た。当時、陸軍軍医学校の出張所があった中山競馬場では、ガスエス血清製造の為、全国から馬を五百頭程集めた。貨車に積み込まれた馬を下総中山駅で一頭ずつ手渡された。背骨が浮き出た瘦せ老いた馬の蹄は伸び、歩くのもやっとだった。朝、厩舎へ行き、顔を与え厩舎の掃除をし馬場へ連れだし運動させる。初めの内は馬の世話の合間に、大人の目を盗んで草競馬を楽しんだ。

## 仲子地田守江(昭和六十二年卒)

中学教諭として卒業生を送りました。が、生徒が自分の同窓になるのは、なかなかすぐつたものではない。

## 西ノ久次代(平成二年卒)

江川紹子さんが先輩だったとは驚きでした。テレビで拝見していてもステキなのですが、今回の同窓会だよりです。すっかり江川さんの大ファンになってしまいました。

## 斎藤剛(昭和六十年卒)

卒業して17年、やっと父親になりました。サッカー部の顧問として忙しい日々ですが、在学中はオーケストラ部！人生は何か、どうなるか、分かりませぬ。年一回の会報ですが楽しみにしています。

## 小川正治(昭和三十五年卒)

59才6か月にして念願であったMBA(経営学修士)を取得。生涯学習のスタートに立った心境です。

## 竹内正(昭和二十七年卒)

62才でサラリーマンを卒業、第2の人

長閑な日々もあった。獣医師は、えさ園を馬の背に注射し、二ヶ月位すると抗体を調べ、血清製造が可能だと判断すると、馬の体中の血を全て抜き取る「全採血」をした。馬の前後の脚同士を綱で縛り、その綱を中学生達が引っ張り馬を倒す。大人が斧で馬の肩関節を割る。獣医師が頸動脈に太い針を刺す。針に繋がれたチューブに血が流れ、直径十厘高さ四十厘位の円筒形ガラス瓶が五十本程並ぶ。血液の流れが止まりかかと脚の綱を解く。すると全身の力を振り絞り前脚で立ち上がり、か細い断きをしてどと倒れる。毎日同じ出来事の異様な光景を黙々と繰り返していた。しかし、八月十日頃の真夜中、血清製品倉庫が火災に会い完成品は灰と化したのだ。嗚呼無常！

## 編集後記

- ▽同窓会の窓口を担当していても、一般の会員の方と接触することはそう多くない。
- ▽生の声がきけるのは、この同窓会だより同封のハガキの通信欄である。
- ▽一部は「おたより彼れ是れ」として紙面で紹介させていただいているが、ご紹介できないものも数多くある。
- ▽取り上げた記事について大きな反響があるとなつてもうれしい。
- ▽恩師の先生をとつちかしく思ったとか、出身の部活の活躍を喜んでいてよかったですと思う。
- ▽原稿執筆を引き受けて下さる方々にはとても感謝している。